

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	鵜川 泉 (うかわ いずみ)
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	早稲田大学大学院人間科学研究科 修士課程 1 年
発表年月 または事業開催年月	2026 年 3 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	日本 GI 学会第 27 回研究大会
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	筆頭演者: 鵜川 泉 (うかわ いずみ) 共同演者: 鈴木 吾蓮 (すずき あれん) / 早稲田大学大学院人間科学研究科 共同演者: 桂川 泰典 (かつらがわ たいすけ) / 早稲田大学人間科学学術院
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	アセクシュアルセルフスティグマ尺度の開発—日本のアセクシュアル当事者におけるセルフスティグマ尺度項目プールの作成—
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
<p>【問題と目的】 アセクシュアルとは、他者に性的に惹かれないという性的指向である (Decker, 2019)。アセクシュアル当事者は非当事者よりも、メンタルヘルス悪化のリスクが高い (Yule et al., 2013)。性的マイノリティにおけるセルフスティグマは、うつや不安、孤独感、自殺傾向などにつながるリスクがあり (Yadavaia & Hayes, 2012)、その測定法の開発が望まれる。しかし、アセクシュアル当事者が経験するセルフスティグマを測定する尺度は国内外を問わず開発されていない。本研究では、自由記述式質問紙により本邦におけるアセクシュアル当事者が感じるセルフスティグマを整理し、アセクシュアルセルフスティグマ尺度項目プールを開発した。</p> <p>【方法】 調査対象: アローセクシュアル以外 (アセクシュアル, グレーセクシュアル, デミセクシュアルなど) を自認する当事者 204 名。平均年齢は 28.4 歳 (SD =6.6)。調査時期: 2024 年 9 月 10 日から 2024 年 10 月 1 日にかけて調査を実施した。調査方法: 自由記述式の Google フォームアンケートへの回答を求めた。調査内容: アセクシュアルが経験する 6 種類のマイクロアグレッション (Foster, 2017) を参考に、「アセクシュアルの存在を否定するイメージ」、「アセクシュアルらしさに関するイメージ」、「アセクシュアルの特徴を否定するイメージ」、「その他のイメージ」の 4 つの回答欄を作成し、回答を求めた。分析方法: KJ 法 (勝谷他, 2011) を参考にした。倫理的配慮: 早稲田大学「人を対象とする研究に関する倫理審査委員会」の審査・承認を得て行われた (承認番号: 2024-148)。</p> <p>【結果】 分析の結果、6 個の上位カテゴリー、24 個の中位カテゴリー、61 個の下位カテゴリー、261 個のコードを得た。上位カテゴリーは「対人関係」、「異常性」、「パーソナリティー・感情」、「性的な事柄」、「自己への否定的態度」、「アセクシュアルの否認」であった。また、51 個のアセクシュアルセルフスティグマ尺度項目プールを得た。</p> <p>【考察】</p>	

本邦のアセクシュアル当事者が感じるセルフスティグマの特徴は、「社会とアセクシュアル当事者である自分との関わり意識の強さ」である。先行研究と比較し、新規性が確認されたセルフスティグマとして、「社会の流れに反する異常な存在としての自己認識」、「社会の一員であると周囲から認識されないことへの恐れ」、「少子化へ貢献できないことへの引け目」などがあつた。

※無断転載禁止